

YWAM

To know God and make Him known

# 沖縄

若者たちと共に宣教の火を東へ西へ

YWAM沖縄ディレクター 吉田奈穂子

それから、イエスは彼らにこう言われた。  
「全世界に出て行き、すべての造られた者に、  
福音を宣べ伝えなさい。」  
マルコ16章15節



世界宣教のビジョンを持ち、若者を訓練し宣教の働きを行う団体、Youth With A Missionの沖縄ディレクターである吉田奈穂子さんの宣教報告と証です。

## YWAMとその働き

Youth With A Mission (以下 YWAM) は、ローレン・カニンガム師によって1960年に創設された宣教団体です。その名前の通り、若者と共に宣教し、宣教に燃える若者たちを宣教者として建てあげることが大切になっています。

ベースと呼ばれる宣教施設がハワイを拠点に180カ国以上あり、日本では、東京、大阪、仙台、長野、神戸、鹿児島、沖縄にベースを置き、DTS(弟子訓練学校)を初めとする各訓練学校、教会開拓、地域教会をサポートする働きなどを行っています。



吉田和彦牧師と奈穂子ご夫妻

YWAMを一言で表すなら「To Know God & Make Him Known(神を知り神を知らせる)」です。伝道、救済、訓練の三本柱をもって大宣教命令(マルコ16章15節)の達成のために活動しています。

「伝道」とは、社会の様々な所に出かけて行き、イエスさまの福音を伝える働きです。

と、自分とは違う考えを持つ人との間で、他の人に自分の義を押し通すよりも、他の人を愛し受け入れることの大切さを学ばされました。

他にもDTSでは「権利の放棄」という講義があり、自分の権利を神さまに明け渡すことを学びました。当時の私は、結婚すれば幸せになれるという考えを持っていました。しかし、学びの中で神さまに結婚を明け渡すことを示されたのです。神さまを第一に求めることを決意し、自分の強く握っていたものを手放した数日後、足りなかった伝道旅行費の献金が与えられました。翌年には、主人との結婚へと導かれました。自分を神さまに明け渡すなら、神さまの最善を受け取るのだということを体験しました。

## YWAM沖縄のディレクターへ

主人は1997年にYWAM



北谷でのアウトリーチの様子

「救済」とは、実際に助けの必要な貧しい地域や国に行き、物資、教育、医療などの支援と共に、イエスさまの福音を伝える働きです。「訓練」とは、神さまの召しに従うことの出来る、神さまとの親密な関係を持った真の弟子を育てる働きです。様々な分野の訓練学校がありますが、代表的な訓練としてDTS(弟子訓練学校)があり、YWAMに来た若者たちは必ず最初に受講します。

## YWAM沖縄の歩み

YWAM沖縄は、1988年オーストラリア人宣教師トビー・キビマキ師ら数名の宣教師によって開拓がスタートし、昨年30周年を迎えました。開拓当初は、訓練生が住むための部屋と活動するためのベースとして、沖縄市高原にあった小さなアパート1棟を借り切って宣教をスタートしました。



DTS(弟子訓練学校)入学式にて

1990年、より広い場所を求めて沖縄市大里の高台にあったアパートに移りました。長らく人の住んでいなかったボロボロの建物をスタッフと訓練生全員で掃除し、修繕しながら、そこで10年ほど訓練と伝道を行ってきました。台風が来るたび裏の崖が崩れ、天井は今にも落ちてきそうなほど建物自体の老朽化が進んだため、新しいベースを探しました。ベース

沖縄のディレクターに、2006年にはYWAM日本の代表に任命され、責任ある役職を兼任していました。

2014年9月、主人はYWAMの世界リーダー会議でシンガポールへ行き、沖縄のスタッフ達も伝道旅行のため国外に出ている中で、私一人沖縄ベースに残っていました。そのタイミングで私は体

調を崩し、体のあちこちに痛みが出て、外に出ることも車を運転することも出来ず、ただ神さまに祈っていました。同時に、インターネットのライブストリームで、主人が出席しているシンガポールのリーダー会議のメッセージにも耳を傾けていました。その中で、今まで以上に神さまに自分を捧げるようにと強い迫りを感じたのです。

主人が帰国すると、私が沖縄のディレクターを引き継ぐことを祈って欲しいと言われました。リーダー会議のメッセージを通して、神さまは主人にも語りかけて下さっていました。実は以前にも何度かリーダーシップの責任者になる事を周りから勧められていたのですが、私は率先して人を導くタイプではなかったので、いつも断っていました。しかし、今回は神さまからの導きだと確信し、引き受けることを決意しました。

が見つかるまでの間、沖縄市のある教会をお借りして活動していた時期もありました。2002年に沖縄市高原の国道沿いに移転。そして2018年11月、うるま市石川にベースとなる建物を購入し、開所式を終えたばかりです。

## 訓練生時代

私は、1991年に北海道の聖書学校を卒業し、DTS訓練生として沖縄にやってきました。その頃の私は、聖書学校を出たばかりで、とても信仰に燃えていました。しかし、自分でも気付かないうちに高慢になっていたのかも知れません。スタッフの方針に対して納得のいかない思いを持つこともありました。

伝道旅行では急なスケジュール変更が多く、柔軟さをもって福音を語ることを訓練されました。思い通りにいかないスケジュール

それから現在まで YWAM 沖縄の責任者として働きを続けています。

### 弟子訓練と若者たちの成長

YWAM 沖縄では開拓当時から、DTS(弟子訓練学校)を通しての訓練と伝道の分野を中心に活動を続けて来ました。DTSでは、若者たちが知識を得ることよりも、神さまとの親密な関係を築き上げることを大切にしています。DTSを通して若者たちは、自分が神さまに愛され、赦されていることを体験し、自分は大切な存在であることを知るようになります。

共同生活や、チームで協力して宣教する中、色々な問題乗り越えることで、自分の能力や考えを超えた神さまの奇跡を体験し、神さまの偉大さを実際に感じる事が出来ます。

祈りや信仰生活が宗教的な習慣や義務感からではなく、自ら喜ん



海外でのアウトリーチの様子

で神さまと教会に仕える者へと変えられて行くのです。

### 海外アウトリーチでの証

YWAMでは、何をするにも祈りながら神さまの導きに従って進めて行きます。現在、YWAMに在籍している若者たちも、壁に直面するたび、神さまに自分を委ねる訓練をしています。

フィリピンのある小さな町に遣わされたチームの証です。その町

は、売春、人身売買、麻薬売買が日常的に行われている所でした。このチームは伝道をするために行ったわけですが、神さまはその場所です。彼らは来る日も来る日もその町をただ祈りながら歩き巡りました。

伝道に導かれたのは帰国の数日前の一回だけでした。町の真ん中で、夜8時から地元教会と合同で大きな路傍伝道を行いました。賛美をしている横で、麻薬の常習者であるという男性がひざまずき、涙を流しながら自分の罪を悔い改めました。多くの方がイエスさまに心を開き、それは素晴らしい時でした。チームのメンバーはこの伝道こそ祈りの答えだと感謝しました。

しかし、祈りの答えはそれだけではなかったのです。帰りの飛行機の中で、現地の英字新聞に、私たちが祈った町のバーに警察の摘

発が入ったことが掲載されているのを見ました。そこは、麻薬や人身売買の元締めとなっている所でした。それまでは警察内部で汚職が横行し、長い間一度も摘発された事はありませんでした。宣教活動に参加した若者たちは、神さまの偉大さ、祈りの力の強さを身をもって体験したのです。

### 若者と共に宣教する事

若者には、勢いと体力、新しいアイデアがあります。彼らへの親心から失敗しないように口出ししたくなる事もありますが、そこは彼らを尊重し、まずは任せることが大切だと考えています。今の世代のニーズを知っているのは、訓練生である若者たち自身なので、彼らの声に耳を傾けることが大切です。

彼らは、どんな場所でも大胆に歌い、福音を語ります。すると、

### 若者たちへ

こちらの予想に反し、聞いている人たちは目に涙を浮かべ福音に耳を傾けることもあります。失敗した時には先輩の世代がフォローします。若者たちのチームと年上の世代が一緒に働くことで、効果的に宣教することが出来ます。

また、DTSを卒業したあと、YWAMのスタッフとして働く人たちもいます。スタッフは、自分の母教会、家族、友人などからのサポート献金だけで活動を行います。仕事に就き、安定した収入があり、社会的な保証があることは誰もが求めるところでしょう。信仰による宣教は、保証の無い中で働きがチャレンジとなります。

自分の人生に責任を持ちつつ、信仰を持って世の中の常識を打ち破り、主に全てを委ねていく時、目に見えない主の備えを体験します。そして、若者たちはさらに主に近い者となり、主の御心を行う者へと変えられていくのです。

30周年を迎えた2018年には、うるま市石川にある現在のベースに移転しました。新しいベースが与えられる間にも、大勢の方の祈りと献金、海外のYWAMから無償でリフォームチームが派遣されるなど、神さまからのあらゆる助けが与えられました。開所式には多くの方にお越し頂き、主のなされた素晴らしい業に感謝を捧げる事が出来ました。

私たちのビジョンは、日本が福音を受け取る者から、与える者へと変わる事です。近頃は、日中韓が一つとなって宣教するようになるとよく言われています。しかし、実際に世界的な働きの中には、日本人が非常に少ないというのが現状です。

これまで、YWAMの働きを通して、神さまが日本を用いたと願っている事を実感しています。



2018年に移転したうるま市石川のベース

今、世界中の視線は日本に向けられています。その中でも、沖縄は神さまに選ばれ、成熟に近づいていると感じています。私の願いは、沖縄の若者たちが世界の宣教のリーダーになることです。沖縄の方の生まれ持った誠実さと優しさ、心の広さは世界を見てもピカイチです。ですから、沖縄のクリスチャンの若者達が神さまの召しに応え、神さまのために立ち上がることを願っています。もし、あ

あなたが神さまに語られているなら、YWAMの活動に参加されることをお勧めいたします。

### 「沖縄伝道ドラマ紹介」大城家と天ぬうやがなし

YWAMのメディアチーム「Create International」と沖縄の牧師、クリスチャンたちで制作した伝道ドラマ。YouTubeにて視聴できます。

\*配布も自由です。多くの方に分かち合ってください。伝道のためにお使い下さい。



ドラマの撮影の様子

